

ねらい

クラスのなかまと力を合わせて一つの『めあて』に向けて取り組む中で一人一人の『ちから』を発揮する。

発達・教師の援助  
環境構成のポイント

幼児期『最終期』のこの時期、園での今までの遊びや生活の中で、一人一人が自分の特性(『好きなこと』『得意なこと』など)を知るとともに、一人ではなく友達と一緒に様々なことに挑戦し、達成感や充実感を味わうようになる。このような実態をもとに、教師は子どもたちの力だけでできることにプラスして、少し困難なことに取り組めるような活動や環境や、子ども同士の思いや言葉のやり取りが積極的に行えるような援助を大切にしていきたい。

実践内容

『げきあそび 浦島太郎~ゆり組リメイク~』生活発表会にむけての遊びは、園生活3年間の様々な経験をベースに、様々な『表現活動』(かく・話す・体全体で・一人で・協働で...)を総合的に取り組んでいる。また様々な『イメージ』(空想の世界・未経験の世界など)を広げる経験も重ねていっている。

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚



色々な『海』のお話に親しむ

言葉による伝え合い

昔話をもとに自分たちでお話を作り上げていく

健康な心と体



「こんなこともできるよ！」  
コウモリの気持ちになって...  
様々な体の動きを楽しむ

自然との関わり

言葉による伝え合い



「カメさんどうしたの」  
「大丈夫？」  
お客さんに伝えるように、  
一人で『台詞』を言う。

自立心

協同性



みんなで『竜宮城』の群像表現

自立心

「ほくは、ここで石になるよ」

豊かな感性と表現



リズムによって『乙姫の♪ワルツ』~踊りを自分たちで考える

豊かな感性と表現



お話の中に出てきた3つの宝を作る

協同性



みんなの歌声が響き合う  
美しさや心地よさを感じる

豊かな感性と表現

道徳性規範意識の芽生え

(曲中の一部分は...)順番を守って、  
グループで自分たちの担当の部分进行

保育を振り返って 1年生につながるもの:主体性・思考力・意欲・創造力・表現力

生活発表会(げきあそび)の活動は、子どもたちの一人一人から生まれる『思い』(こんなことがしてみたい!・こんなことができるかな?)と、教師の『ねがい』(経験してほしいこと・育てたいことなど)を絡み合わせて、取り組んでいる。『教科』として区切れるものではないが、活動の中には様々な小学校以降の学びの基礎となる要素が含まれている。

子どもたちの『自分で考えよう』『まず、やってみよう』『うまくいなくても大丈夫』という積極的な意欲を大切に育てていくことが、特に1年生につなげたい力と考えている。